知ってますか？桑名杯のこと！

「桑名杯レディーステニス大会」は1981年に、桑名寿枝子JLTF初代会長が自身の米寿を記念して、全支部に優勝カップを寄贈したことをきっかけにスタートしました。2009年には、各支部の代表選手が競い合う「地域桑名杯大会」も開催されるようになり、試合経験の浅い皆さんにも楽しんでいただける大会となっています。

桑名杯レディーステニス大会
心にゆとり と 爽やかマナー！
広げよう テニスの仲間！
主催：日本女子テニス連盟

桑名杯のスローガンは「初心者にこそチャンスを与え、夢を与え、テニスの楽しさを伝えて行こう！」

桑名初代会長より寄贈された優勝杯

【創設者、桑名元会長はこんな人】

日本女子テニス連盟の初代会長で桑名杯の創設者、桑名寿枝子（旧姓 加生スエ）は明治27年7月12日、福岡県に生まれました。家から学校までの往復８キロの道のりを、雨の日も雪の日も炎天下でも、着物に袴を履き、教科書と筆入れや弁当を入れた風呂敷を巻き付けて下駄履きで通ったそうです。軟式テニスとの出会いは高校生の時。テニス好きの先生が砂地にラインを引いてテニスコートを作ってくれた事がきっかけでした。当時は試合というと、年に１、2回の校内試合があるくらいでしたが、先生の指導でスエさんのテニスの腕はぐんぐんと伸びていきました。

23歳で結婚し、ご主人の赴任地アメリカで18年間を過ごしましたが、帰国3年前から現地のコーチに就いて硬式テニスを始めました。昭和10年の帰国後間もなく、東西トップ選手による対抗試合のメンバーに選ばれると、以後、テニス選手として留まるところを知らない活躍を見せました。

1976年に朝日生命久我山コートで開催された「全日本壮年混合大会」のエキジビションマッチに参加する桑名初代会長（当時82才）。ネットを挟んで右側は岡川理事長（当時12才）

国体は第1回大会から9回大会まで連続出場、芦屋全国グランドベテラン大会は第1回大会から27回連続出場し、その間3回優勝して92歳まで出場するなど、数多くの試合で輝かしい戦績を残しました。

また1958年に東京で開催されたアジアオリンピック大会では女子選手村村長、1960年のローマオリンピックと62年アジアオリンピック（ジャカルタ開催）ではシャペロン（世話係）を務めるなど、女子スポーツ界にも貢献しました。

日本女子テニス連盟の会長を15年間務める一方で、（公財）日本テニス協会理事も兼任し、平成5年4月、満開の桜に見送られて98歳9ヶ月の生涯を閉じました。

桑名杯レポート　Vol. 1

2024年　支部から届いた「あんな話、こんな話」

～我が支部の推しペア・推し選手～

岩手県（千田亜美・遠藤友美ペア）

【逆・木綿のハンカチーフ　手にしたのはテニスラケットペア】
都会から岩手の大地に住むダーリンのところにお嫁に来てから、テニスを始めた二人。桑名杯挑戦は、昨年に続き2回目。今回は8チーム中6位。頑張りました。「スキーオフシーズンのエクササイズでテニスを始めた千田（神奈川県出身）と、テニスを習い始めた息子の影響で自身もどハマりしてしまった遠藤（宮城県出身）が、岩手で巡り会いペアを組んでいます。支部開催のバザーで手に入れた揃いのウエアをキメ込んで、桑名杯に挑みました。」

宮城県（小泉郁子・冨田直美ペア）

『桑名杯は何度目の挑戦か覚えていません、子供が2歳の時からのママ友です。』とおっしゃるお二人は、明るくいつも笑顔で周りの人たちも幸せな気持ちにしてくれます。

京都府（山上･西村ペア）（野島･浅田ペア）

10年で8度同じペアで参加されていた2ペアを選ばせていただきました。
「来年こそはもうちょっと、来年こそは・・・と出場し続けて気づけば10年。それでも折れない！！来年こそは頑張ります。」

群馬県（貫井さん）

少し前から試合に出ていただく機会が増え、今回終始楽しそうにプレイしていた姿が印象的でした！

鳥取県（福浜美佐緒・田中沙也香ペア）

年齢は親子ほど離れていますが、とても仲良しなお二人。昨年に引き続き2度目の桑名杯出場で、今年は3位トーナメント準優勝でした。来年もまた一緒に出場して欲しい！

広島県では「推しイベント」開催も

なんと！30年前の支部長杯で優勝した写真を持参しイベントの列の先頭に並んだのは
「小川・花房ペア！

選手の皆さんは、試合の合間に撮影したり、掲示板を見に来るなどして楽しんでくれていたように思います。

大会当日は、撮影希望の選手を役員がインスタントカメラで撮影し、用意した掲示板にコメントを添えて自由に貼ってもらいました。その写真は帰るとき各自持って帰っていただきました。

制作/JLTF広報委員会